

お盆法要

8月15日(土)

午前10時～10時半
午後12時～12時半
午後2時～2時半

ご都合によっては、対象以外の回にお参りされても構いません。

新盆対象
新盆・一般のお盆対象
一般のお盆対象

8月16日(日)

午前10時～10時半
午後12時～12時半

新盆対象
新盆・一般のお盆対象



持ち物

過去帳か位牌
お念珠
お経の本
読み上げ用紙

当日は、平服でかまいません。
それは、先立っていかれた、すべての方が浄土に生まれていらっしやるという意味なのです。
それにより家族単位ではなく、法徳寺有縁の方々全員で読経・お焼香頂き、法話を聴聞頂いております。

お盆法要について
法徳寺では、毎年、有縁の方々合同で新盆法要・お盆法要をお勤めしております。
浄土真宗のお盆は、お寺の阿弥陀様に、お参りするものが、正式なものです。
その主旨は、阿弥陀経に「俱会一处、阿弥陀仏の浄土で、俱(とも)に一つ処で出会う」という言葉が出てまいります。
それは、先立っていかれた、すべての方が浄土に生まれていらっしやるという意味なのです。

浄土真宗のお盆の迎え方

ぼくたちの出番はないね・・・



浄土真宗は、いつものお飾りそのままです。理由は、先祖はお盆の時期にだけ帰ってくるわけではないからです。
いつも帰ってきて下さっているという気持ちで、毎日お参りして下さい。

法徳寺こども会



だれでも参加OK!

法徳寺では、毎年恒例の夏休み限定の子ども会を開催しています。今年も、例年通り、法徳寺に午後から集まり、バスで移動、キャンプ場を散策、水遊びなどをした後、お寺で仏さまの話やゲーム、そして夕飯にはカレーを食べて、花火をして解散という予定で、夏休みの一日を過ごしたいと思います。

日程 8月20日(木)午後1時～夕食後、解散
場所 法徳寺
(散策は南足柄市、夕日の滝キャンプ場)
対象 小学生～中学生(親同伴の場合、幼児も可)
参加費 無料 **8月16日までに申し込み下さい**

<お問い合わせは法徳寺まで>
046(228)3962

法徳寺別院 立德寺よりお知らせ
毎月の法話会 15時より16時
7月12日、8月9日、9月13日
立德寺 046-391-2471
伊勢原市桜台3-16-9

法徳寺壮年会野外研修会



6月26日青蓮寺(厚木市三田)へ参拝、その後、古民家の岸邸、山十郎を訪れました。どちらも、素晴らしい木造建築でした。その後、愛川町にある、甲斐の武田信玄と小田原の北条氏康軍が戦った三増合戦場の史跡に行きました。

ご案内

法徳寺には、境内に永代合祀墓がございます。納骨を、ご希望の方はお気軽にご相談下さい。寺が責任をもって永代にお護りいたします。



法徳寺墓地内の永代合祀墓

二二法話会

7月2日(木)
PM1時半～3時
8月は、お休み
9月2日(水)
PM1時半～3時



お盆号の法話

先日、我が家にもオレオレ詐欺の電話がありました。幸い、私本人がいたので、大丈夫でした。被害にあった方の中には、オレオレ詐欺のことを知っていたという方もいます。でも、自分には、まさか、ないだろうと思ってたそうです。皆様も、「死」ということを知ってはおります。しかし、今、健康でお暮らしになつていらっしゃる方は特に、まさか、自分が明日、このいのちなくなるかもしれないとは思っていないと思います。私の座右の銘は、「人間いつ死ぬかわからない、それなら、今、好きなことをしよう」というものです。

お盆号を拝読していますか？



私は、葬儀・法事などを始める際、「一緒に、合掌し“なんだぶつ”とお念仏を称えましょう、そして、私と一緒に礼拝を致します。」と申し上げます。そう申しませんと、誰もお念仏を称えて下さらないからです。しかし、こう申し上げても、なかなかお念仏を称えて下さる方は少ないのが現状です。称えない方は、宗派が違うという理由なのか、恥ずかしいのか、無宗教なのか分かりません。しかし、「私は浄土真宗の門徒です」とおっしゃる方でも、日常、合掌しお念仏を称える習慣がなければ、称えて下さらないのです。それでも、一人でも一緒に称えて下さる方がいらつしやいますと、とても嬉しくなります。以前の私は、このような言い方はしませんでした。葬儀・法事にお参りされる方は、浄土真宗の方ばかりではないというのがその理由でした。しかし、最近、あらためて、生きとし生けるものすべてが、阿彌陀様の救いの目当てであったということに気づかされました。そうしますと、無宗教だということも、曹洞宗の方も、日蓮宗の方も、新興宗教の方も関係ないのです。みな共通な不安があるのです、それは「死」ということです。この大問題に関係ない人はいないのです。人生は、後悔の連続ですが、人生の最後に、「私は、いたい死んでどうなるのだろうか、この解決を生きている間にしたかった」と後悔するのは嫌だと思えます。

世界の中心は東京だ



先日、西伊豆の松崎に行ってきました。とても、のどかな港街です。約5年前に「世界の中心をさげろ」というテレビドラマが放映され、ロケ地となった松崎町は、今でも、ドラマで描かれた風景を求め、訪れる者が絶えません。私も最近、たまたま、ケーブルテレビで再放送をみて、行ってみたいくなりました。ドラマは、ある地方都市、高校生で同じクラスの松本朔太郎と廣瀬亜紀は、互いに恋に落ちました。だが、亜紀は白血病にかかり、日

ごとに衰弱していき、やがては、亡くなってしまふという、大変、悲しいドラマです。朔太郎は、恋人を失った後、勉強に打ち込み卒業式にも出ず、やがて医者になり、17年間、独身、恋人のお骨をどんな時も離すことが出来ません。恋人との思い出が一杯つまった故郷には、一度も帰ることが出来ないでいます。あるとき、高校の担任の先生からの一通の手紙で、帰る決心をします、それに「まだ、帰ってこれませんか？」と書いてありました。主人公は、恋人のお骨をまいってあげようと故郷に戻りますが、なかなか、場所がみつかりません。大人になった主人公と、高校生の二人が幸せだった日々から恋人が亡くなるまでを重ね合わせたストーリーに大変感動しました。

生きてゐるのは当たり前だ、



そのドラマの中で、亜紀は「何かを失うということは、何かを得ることなんだね」「生きていることが、こんなに嬉しいなんて、知らなかったよ」という台詞がありました。失つてみて、初めて、気付くこと、学ぶことって沢山あるんだなと思いました。また、亜紀が、何度も、恋人に「私は、何のために死ぬの?」「何のために生まれてきたの?」「天国ってあるの?」「尋ねるのですが、やがて、死期が近づき「天国なんてないよ...」だつてここ天国だもん...」私は、あなたに出会うために生まれてきたんだよ、ずっと待っていたんだよ」と大好きな恋人に、出会い、支えられて今この時が、天国という言葉に、大変感動しました。私は、天国と浄土の違いはありますが、この台詞に浄土真宗の教えを重ねてしまいました。私は、浄土真宗の教えは、生きる力と安らぎを与えるものだと思います。寺院も病院も、同じ「院」がつかます。これは、生きていく者が救われる場という意味です。また、浄土真宗の葬儀は、亡き方が救われるのではなく、残された皆様が救われ、これからの人生をどう生きるべきかをみつめさせていただくものだと思えます。亡き方を、ご心配されるお気持ちばかりですが、阿彌陀様が、必ずお救い下さいます。亡き方を心配するのは、阿彌陀様のお仕事なのです。逆に、亡き方は、残された皆様の事が、心配で仕方がないと思えます。

白骨の御文章



先日、私の仲人を勤めてくださいました方が、急死されました。倒れたと聞き、病院に駆けつけた時には、もう、息をひきとつておられました。あまりの突然のことで、ご遺体を前にしても、信じられず、「白骨の御文章」のお言葉が頭をよぎりました。「朝には、紅顔ありて、夕べには白骨となる身なり」。本当に、運如上人のお言葉通りだとあらためて、この世の無常を感じました。私は、何も恩返しが出来ないまま、先に行かれてしまいました。

私に出来ることは、葬儀の導師をさせて頂くことくらいでした。しかし、浄土真宗は、「さようならではなく、また、会いましょう」のお別れが出来ます。いつか、また、浄土でお会いしたときは、恩返しをしたいと思っております。そして、浄土では、笑顔で再会し沢山の土産話をしたいと思えます、そして、少しは、褒めてもらえるように、頑張りたいと思えます。

度々人生



先日、同じ宗派の僧侶である山崎龍明先生のご本が書店で平積みされていました。現在は、書店で仏教書が数多く見られます。その中の一文をご紹介します。『よき人生とは、なにこともない人生ではありません。さまざまな障害、困難を乗り越えたところにもたらされるものです。人は、深い苦しみ悲しみを知らずには生きて、よろこびにであうことができます。人にもやさしくなれるのです。悲しみは人をつくる。私は、そんな人になりたくありません。悲観的なものではないという思いで、私はここにまで生きてきました。この世でたったひとつの私のいのち。一度限りのやり直しのきかない私の人生。きのうのいのちと、きょうのいのちとはまったくちがう。そんないのちを、きょう一日精一杯、燃焼させたい。こんな気持ちで朝を迎えますが、後悔に終わることも多いのです。しかし、また、気持ちを切り戻して、きのうのいのちではない。今日の、このまっさらないのちを私は、精一杯生きたいと思えます。』

南無阿彌陀仏の本気の意味

(ポケット親鸞の教え 山崎龍明著 中経出版)

南無阿彌陀仏とは、「安心していいよ、頑張らなさい」と、私に呼びかけてくださる阿彌陀様のお言葉なのです。南無阿彌陀仏は、私が称え、私の口から出るのですが、私が発信地ではないのです、阿彌陀様自身なのです。南無阿彌陀仏は、仏様が私の元に現れている姿です。南無阿彌陀仏は、私が言う言葉だと思つていたら、駄目です。阿彌陀様は、私が、忘れていても忘れて下さない仏様です。だから、いつでもどこでも、私の口にお念仏となつて出て下さるのです。私の口に出て下さるといふことは、いつでも阿彌陀如来様と一緒にいるのです。「ナンマンダブツ」と称えるとき、目には見えなくてもちゃんと阿彌陀様がいつしよにいて下さっているのです。そして、いつも私を力づけて下さるのです。阿彌陀様は、この苦しみに満ちた人生に、たった独りで生まれ、たった独りで死んでいかねばならない私たちに、安心して人生の旅を続けさせ、目的地は浄土なんだよと教えてくださっています。そのおはたらきに気づいたら、「ありがたい」とお念仏が自然に称えられると思えます。(法話 法徳寺副住職 伊東英幸)